

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査（小学 6 年生）の結果をお知らせします

平成 30 年 10 月 日

唐津市立馬渡小学校

平成 30 年 4 月 17 日（火）に、全国学力・学習調査（国語 A B，算数 A B，理科，児童質問紙）が実施されました。その結果が届きましたので、これまでの学校の取り組みや課題等も含めてお知らせします。

## 【教科に関する調査結果】

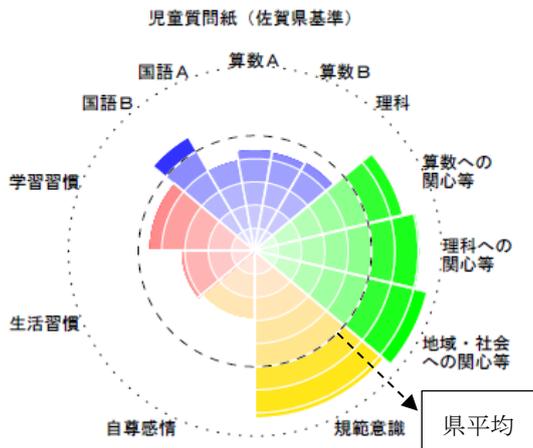
- ・国語 A（基礎的内容）の本校の平均正答率は、県や全国を約 7 ポイント程度下回りました。国語 B（応用的内容）の本校の平均正答率は、県を 5 ポイント、全国を 4 ポイント強上回りました。
- ・算数 A の本校の平均正答率は、県を 6 ポイント、全国を 5 ポイント強下回りました。算数 B は県を 6 ポイント、全国を 6 ポイント強下回りました。
- ・理科の本校の平均正答率は、県を 5 ポイント、全国を 4 ポイント強下回りました。



## 【各教科の領域別の傾向について】

- ・国語 A では「話すこと、聞くこと」は国・県の正答率を上回りました。「読むこと」「書くこと」で国・県を下回りました。国語 B では「話すこと・聞くこと」で国・県を下回りましたが、「書くこと」で国・県を大きく上回りました。
- ・算数 A では、「図形」の領域で国・県を上回りましたが、その他の領域では国・県を下回りました。算数 B では、「数と計算」「数量関係」は国・県と同程度でしたが、「図形」で国・県を大きく下回りました。
- ・理科では「知識」に関する問題では国・県をやや上回りましたが、「活用」に関する問題で、国・県を大きく下回りました。

## 【学力・学習状況調査および児童質問紙結果】



## 【児童質問紙調査結果について】

- ・今回の調査では、本校の対象児童は 4 名と極端に少ないため、全国や県の平均との比較が必ずしも妥当とは限りませんが、「生活習慣」「自尊感情」の項目が、国・県に対して特に低い回答になっていました。内容では「就寝時刻」や「授業以外での予習や復習などの学習」についての意識が低い傾向にありました。
- ・一方「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「毎日朝食を食べている」「今住んでいる地域の行事に参加している」の質問に対しては、すべての児童が「当てはまる」と回答していました。

近年「活用力」「応用力」の必要性・重要性がよく言われ、本校においても課題となっています。今回の 4 月調査の B 問題（記述式で活用力・応用力を問われる問題）では、国語以外で国・県の平均正答率を下回りました。一方、A 問題（主として基礎的内容）の正答率も、理科の「知識に関する問題」以外では国・県を下回る結果となっています。これまでも基礎基本を習得させることには力を入れてきましたが、まだ定着していないところもあります。必要な「活用力」「応用力」を培うための授業やスキルに取り組んでいくとともに、それを支える、児童一人一人の基礎基本の確実な習得にも足りない部分を見直し、継続して取り組んでいきます。

## 【これまでの取り組み】

- ・授業の中で思考力、表現力を培うために、話し合い活動「あいタイム」を位置付けた授業を心掛けてきました。
- ・夏季休業中より、児童各自の段階に応じた、思考力を培うスキル問題に取り組んでいます。
- ・スピーチ朝会や、「みんなでお話会」等の話し合い活動で、発表や感想の交流をすることを通して、表現力や聞く力の向上を目指してきました。

## 【これからの取り組み】

- ・「あいタイム」とともに、授業で目指すべき到達点を児童に意識させるために、「チャレンジレベル」を取り入れた授業を進めていきます。
- ・今後も、段階に応じた思考力を培うスキル問題に、中学校を含めて全校的に取り組んでいきます。
- ・漢字の書き取り、算数の小数や分数の計算など、小学校段階での基礎基本の定着に力を入れていきます。